

早稲田大学 教育学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	大問4問の構成は例年と同じ。選択肢・適語補充問題ともに専門的内容まで踏み込んだ問題も多く、全体的に難易度が高い。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
[]	地方自治 三位一体の改革	設問(1)(2)は基礎知識を問う問題。設問(3)はやや踏み込んでいるが、語群があるので難しくはない。空欄5はやや迷う。設問にはないが、経済産業省担当では「小規模企業等活性化補助金」等の改革がおこなわれた。	易
[]	福祉国家 先進国の政党	先進国の福祉制度のありかたと主要政党の思想に関する問題。大陸ヨーロッパ諸国のキリスト教民主主義政党は社会主義の台頭や労働組合運動の激化を背景として誕生した。フレキシキュリティー(「柔軟性」と「保障」の合成語)は難問。	難
[]	経済主体 国民経済指標	三つの経済主体に関する基礎知識を問う問題が多い。設問(3)のア、経済成長率はマイナスとなる。	標準
[]	金融政策 金融危機	今日の金融危機のきっかけともなったサブプライムローン問題。時事問題や金融用語などに関する出題。設問(1)の空欄1・4、設問(2)・(3)は難問。	やや難

〔総合コメント〕

教科書・資料集・用語集レベルの知識をふまえたうえで、時事問題に関するやや踏み込んだ知識が問われている。時事問題については、日頃から新聞記事などにも注意し、その問題発生背景などもふまえて押さえておく必要がある。
--